

第

53

回配本

満洲Ⅱ編

全5巻(第363～367巻)

* 2023 年 9 月刊行

建国 建設 組織 軍事 教化 宣撫

移住 経営 視察 教育

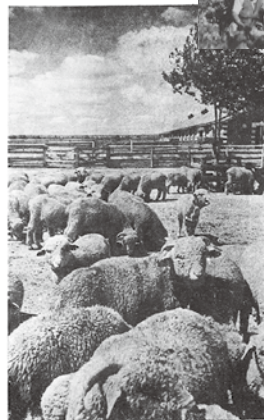
そこで、その時に生きた

ひとかどの人物から聞く

貴重な歴史の証言集

満洲国・満洲国協和会

元号		西暦	関係略年表
日本	満洲国		
昭和6		1931.9	柳条湖事件（満洲事変勃発） .12 若槻礼次郎内閣総辞職 犬養毅内閣成立
昭和7	大同1	1932.1	上海事変（第一次）勃発 .3 《満洲国》建国 溥儀執政 .3 国際連盟・リットン調査団派遣 .5 五・一五事件 .7 《協和会》発足 .10 リットン報告書 日本の主張否認
昭和8	大同2	1933.2	熱河作戦実行 .3 日本、国際連盟脱退
昭和9	康德1	1934.3	《満洲国》帝政 溥儀皇帝
昭和10	康德2	1935.4	溥儀来日
昭和11	康德3	1936.2	二・二六事件 .7 協和会《満洲国協和会》に改称
昭和12	康德4	1937.7	盧溝橋事件 日中戦争勃発
昭和13	康德5	1938.4	国家総動員法公布
昭和14	康德6	1939.5	ノモンハン事件 .9 ドイツ、ポーランド侵攻 (第二次世界大戦勃発)
昭和15	康德7	1940.9	日独伊三国軍事同盟 .10 大政翼賛会発足
昭和16	康德8	1941.12	日本軍ハワイ真珠湾攻撃 (太平洋戦争勃発)
昭和17	康德9	1942.3	東京に初の空襲警報
昭和18	康德10	1943.10	学徒出陣始まる
昭和19	康德11	1944.7	東条英機内閣総辞職
昭和20	康德12	1945.2	ヤルタ会談 .7 米英中・ポツダム宣言 .8 日本無条件降伏 《満洲国》崩壊



(図版) 収録書より
[363 巻: 満洲国皇帝 / 満洲国
国歌 / 著者]
[365 巻著者]
[367 巻「鮮満の旅」]
[366 巻]

アジア学叢書

広大な領域をカバー
テーマ別編集・配本

地域・国・歴史・社会・
政治・経済・法律・教育・
思想・宗教・風俗・習慣・
地誌・風土・交通・旅行・
紀行・産業・物産・文化・
科学・自然・環境・芸術・
民族・戦争・近代・植民地・
言語・ことば……

「アジア」のいとなら、
まず「アジア学叢書」から

学術資料出版

大空社出版

●各巻の詳細内容（目次）はこの案内の5, 6ページに掲載しています。

363. 満洲事変秘史 津田元徳 著
 364. 建国前後 三宅光治 著
 365. 建設者の息吹 田村敏雄 著
 366. 満洲牧場記 関屋 牧 著
 367. 満蒙を正視して 西内精四郎 編
 鮮満の旅 大場運次 著 (2 点合本)

364 建国前後 三宅光治 著

A5 判・上製・300 頁 978-4-86688-364-9
 定価 18,150 円 (本体 16,500 円 + 税 10%)

[復刻原本: 満洲新聞社、1944・昭和 19 年刊] 著者 (1881 ~ 1945) は日露戦争で満洲軍副官、第一次大戦後の平和条約実施委員などを経て、1928 年関東軍参謀長となり満洲事変に対応、1932 年中将、1940・昭和 15 年~終戦まで満洲国協和会中央本部長、終戦後シベリア抑留中に死去。●「この一書によって明治二十七八年、かの日清役に初まる東亜黎明の偉大なる歴史的動き、そして大東亜戦下に厳として私達の目の前に躍動する大東亜の軸心満洲国の存在意義を、少しでも酌み摂って貰えたならば私の本懐とするところである (はしがきより)」。日清・日露戦争の従軍経験から満洲国の国策運動の中心的組織・協和会の活動と、時代の空気を伝える証言録。 [目次抄] 1. 建国前後 (日清戦争と日本の目醒め / 義和団事件とロシアの南下 / 英米の野心台頭と日本国内の事情 / 満洲事変勃発前の空気 / 昭和六年九月十八日夜 / 協和会の創立) 2. 大東亜共栄圏確立と協和会の使命 (満洲建国の世界史的意義 / 建国精神と協和会 / 共栄圏確立と協和会運動) 3. 決戦下に於ける協和会運動の現状 (創立の理念と任務 / 運動の方針、決戦下の三大目標 / 二位一体の確立 / 科学技術翼賛も具現 / 国民の組織的訓練) 4. 完勝筆言録 (宣戦の布告を拝して / 建国十周年を迎ふ)

365 建設者の息吹 田村敏雄 著

A5 判・上製・380 頁 978-4-86688-365-6
 定価 20,680 円 (本体 18,800 円 + 税 10%)

[復刻原本: 新京日日新聞社出版部、1940・昭和 15 年刊。口絵著者肖像写真] 著者 (1903 ~ 1963) は満洲国財政部文書科長・人事科長、民生部教育司長を勤めた。●「われわれは、何を、どう考えるか。いうまでもなく、この現代を、この環境を、すなわち、満洲建国という、日本国体一超民族的な、人類生活の基本的再考方式一の顕現であり、大陸的發展である、歴史的大事業のまっただなかにおいて、生き、考えるのである。(…) いくらかでもわれらの歴史的な建設、新時代的生きかたについてさらに考えていただくことにでもなれば、まことに、しあわせである (序より)」。一国民・一民衆の生活日記をつづる形で、社会・時代の空気を受け止め、率直な心情を吐露する (1940 年冬に新聞連載の随筆)。全 98 章。 [目次抄] 今の満洲に欠けているものは? / 満洲国は道義国家だというのが / バアナアド・ショウと林語堂とを並べて書いたら / 銃後一般民衆に非常時局を意識させる / 倉田百三氏が渡満せられた / この頃の新聞を見ていると、考えさせられることが / 日本人ほど外国のことに通じている国民はないといわれる / 満洲国は官僚の楽土だ、といった人が / 「自戒自肅」は消極的だから「協和奉公」に代えよう / 満洲における日本人は不親切だとは皆人の認めているところ / 紀元二千六百年の新春を迎へ / 組織か人か? あるいは制度か / 日本人たるの誇りをもてといっても / この頃日本内地では、官僚に対する非難攻撃の火の手が / いわゆる「精動」すなわち国民精神総動員聯盟は / 昨年の協和会全聯において梅津名誉顧問は / パール・バックの「戦える使徒」を読んだ人は / よく思想の統一だの、共通の意思だのというけれども / 「東亜の新秩序」ということは、いまはもはや / ある人は満洲国には政治がないといった / 協和会の本年度工作方針について

363 満洲事変秘史 津田元徳 著

A5 判・上製・880 頁 978-4-86688-363-2
 定価 44,000 円 (本体 40,000 円 + 税 10%)

[復刻原本: 満洲文化協会、1934・昭和 9 年刊。口絵写真 5 葉 (満洲国皇帝・皇后陛下、肅忠親王、著者ほか)、写真・資料図版多数収載] 著者 (1871 ~ 1962) は東京高等師範卒、福島・山形的女子師範校長など教育界で活躍、また旅順博物館長を勤めた。事変の経過を国内外の報道や法令を追いながら関係重要人物の紹介を豊富に盛り込む。自身が肌身で取得した異色の〈総合的事変史〉。●「40 年間師範教育に一貫従事し、内 20 年間支那欧米を正視巡遊し、刻下の世相と世界の大勢とに鑑み満洲事変に於ける史実を叙して、我が日本帝国は素より、満洲帝国、中華民国を主とする世界列国将来の為に、錬想熱血を注ぎたる」大冊 (跋より)。 [目次抄] 1. 我が帝国の政局 2. 事変と外交 3. 満洲国独立前後の秘幕 (至徳高運の元首 / 独立貢献の二邦人 [河本大作大佐、甘粕正彦大尉] / 独立幫助の三人男 [于冲漢、蒋介石、内田康哉]) 4. 勲功と大日本精神 5. 教育革新の五大方針 6. 支那軍閥の真相 7. 支那の国民性: 附録・日本人の長短所 8. 結論 (支那の将来と日本の覚悟 / 大生大死の教育) 附録篇: 却老環少の仙薬



第三篇 満洲国独立前後の秘幕
 × × 天津時代の宮統帝と皇后及びジョンストン氏夫妻

二四二
 解する大人の住居だと首肯される奥深い書齋に案内されると、ジョンストン氏は、
 いよ／＼溥儀執政が皇帝におなりになれるんですつて、實に嬉しい、お目出度う
 と薄面に笑みを泛かべて記者の手を固く握る、記者が、
 私は機縁によつて溥儀執政の北京燕廬のときには北京の日本大使館にゐてこの詳細を知つてゐるまた満洲事變の際には奉天にゐて報道の第一線に働いたので、溥儀執政の就任式には参列し前後三回親しく溥儀氏に拜謁する機会を得た。
 と語ると、
 さうですか、それではあなたもわが黨ですネ



* 本パンフレットでは、引用は読みやすさを考慮し現代表記に改めています。また今日的に不適切な用語を原典のまま使用した場合があります。見本はすべて縮小です。

367 満蒙を正視して 西内精四郎 編 鮮満の旅 大場運次 著

【2点合本】 A5判・上製・290頁 978-4-86688-367-0
定価18,370円（本体16,700円＋税10%）

〔復刻原本：（満蒙を正視して〔本文124頁・口絵写真2葉・折込大地図：満洲鉄道概見図〕）大連中等学校満蒙研究会、1931・昭和6年12月刊／（鮮満の旅〔本文127頁・口絵写真6葉〕）大場運次、1941・昭和16年7月刊〕 ●「満蒙と朝鮮」は教育界が教育（学生と教員自身）のために「知るべき、辿るべき、理解すべき地」として、各地から視察隊を組織して訪れたところだった。満洲事変勃発から満洲国建国をはさみ日米開戦直前の10年で実施された団体旅誌2編を収める。

『満蒙を正視して』【目次抄】 1. 満蒙の沿革 2. 満蒙の権益 3. 満蒙の重要性 4. 満洲事変の原因 5. 満洲事変の経過一事変日誌 6. 皇軍の奮闘 7. 満洲事変より波及したる全支の排日暴挙 8. 事変と鮮人 9. 事変と在満邦人の活動（青年訓練所の活動状況／少年団の活動状況／学校団体の活動状況／婦人団及女学生小学児童の活動状況） 10. 満洲事変と国際関係 11. 事変の拾収 附録（国際聯盟規約／九箇条約／露支同盟秘密条約／日露講話条約／満洲に関する条約、附属秘密議定書／満洲五案件に関する協約／間島に関する協約／南満洲及東部内モンゴに関する条約）

『鮮満の旅』*東京市聯合青年団皇紀二千六百年記念事業として「青年を鮮満自然の環境に接せしめ人文の現況を視察し兼ねて満洲国協和青少年運動の実際を見学し、之と交歓し併せて新東亜建設の大業に協力邁進しつつある満洲帝国に対する認識を深むる」目的で実施された記録。【目次抄】 東京駅発 釜山着・京城泊 朝鮮の教育及創氏令 東大門に就ての哀話 朝鮮人の風俗習慣 金剛山登山 清津 農業の現況 農村振興運動の効果 哈爾濱 伊藤博文公遭難の地 沖・横川等愛国志士の碑に参拝 松花江の明月を賞す 満洲の伝説と民謡 満人の家庭生活に関する民謡 新京 満洲国主権皇紀二千六百年祝典に参列 吉林見学・娘々廟の由来 奉天 撫順 鉱業・工業 大連 満洲の土壤と生産力 満洲国拓民事業の現状と将来 青少年義勇軍の開拓事業 旅順開城に関するステッセルの手面 都会青年と山村漁村の青年 神戸上陸・湊川神社参拝 大陸二五会 忠霊塔 満洲帝国協和会に就て

366 満洲牧場記 関屋 牧 著

A5判・上製・350頁 978-4-86688-366-2
定価19,800円（本体18,000円＋税10%）

〔復刻原本：奉天大阪屋号書店、1943・昭和18年刊〕 著者は（奥付略歴より）1914・大正3年東京都生れ。昭和10年東京農業大学卒、13年鐘紡入社（農務課）、興安牧場、啓明農業の他数ヶ所の農牧場創設の企画をなしその後開戦中の北支中支の農村文化事業の企画創設に当る。昭和17年10月より鐘紡江北公司農務部調査課長。●満洲における大牧場の生態（立案から運営まで）を具体的に記録した稀な書。馬の興安牧場、羊の王府牧場の昭和15年の実情を、物語風に「郷土的な匂いと自然科学的な観察を織り込み」語り臨場感あふれる。写真30点弱収載 【目次抄】1. 興安牧場（風土の眺め／育馬／白系露人／高原の狩猟／復活祭／牧野・森林・河川・漁族／馬の衛生／狼來了／場内の住民／土地の紛争／馬盗人／馬の歴史に就いて） 2. 王府牧場（牧場の展望／土地と住民の歴史／牧場散策〔羊舎、断尾、去勢、薬浴、サイロー、農具庫、家畜舎と家畜〕／綿羊座談会〔宗教と羊、ギリシヤ神話から、羊肉料理、羊の毛について、羊の病気、出産・繁殖、アルカリ地帯、肥料、麦、家畜ビート、馬鈴薯、蔬菜、牧野、林野、年中行事、経営の意志〕

●各巻の詳細内容（目次）はこの案内の
5, 6 ページに掲載しています。

参考 満洲国協和会

満洲国協和会は満洲国建国精神の普及と民衆教化・宣撫に尽した官制国民組織。

協和会

（一）沿革 「満洲帝国協和会」は國家の機關であると共に又國民の機關でもあり、政府と表裏一體となり五族の協和、百業の振興を圖るために大同元年（一九三二年）四月二日奉天に設立準備委員會を設け、同年七月二十五日國務院に於て發會式を挙げた。そのもとに協和會運動の前身であり又母胎であつたものは、満洲建國前、故于冲漢氏を部長として建國運動に挺身した自治指導部であつた。大同元年（一九三二年）三月一日満洲國成立となり、自治指導部の一半は資政局の創立に從つて之に入り、一半は建國直後協和會を組織して、建國工作の民間運動に没頭することゝなつたのが、この濫觴である。

- （二）協和會の精神 大同元年（一九三二年）七月二十五日協和會誕生に當り「執政訓詞」が發表された。その要點は「建國精神ハ、王道ヲ行ヘンコトヲ期ス、尤モ政黨政治ノ現今時代ニ適宜セサルニ鑑ミ、茲會ヲ之レ設ケ、民族ノ協和ヲ謀リ、百業ノ振興ヲ圖ラントスルハ、予甚タコレヲ嘉ミシ、望ムラクハ無黨無偏云々」とある。なほ協和會の綱領は左の如くである。
- 綱領
- 一 宗旨 王道の實踐を目的とし軍閥専制の餘毒を剷除す。
 - 二 經濟政策 農政を振興し産業の改革に勉むることにより國民生存の保證を期す。共產主義の破壊と資本主義の獨占とを排す。
 - 三 國民思想 禮教を重んじ天命を樂しむ。民族の協和と國際の敦睦とを圖る。
- 更に康德三年（一九三六年）九月十八日の満洲事變五周年記念日に於て植田關東軍司令官は「協和會の根本精神」に關し左の如き指示を發した。
- 一 満洲帝國ノ政治ノ特質 満洲國ノ政治ハ民主主義的議會政治ノ體ニ倣ハス、專制政治ノ弊ニ陥ラス、民族協和シ正シキ民意ヲ反映セル官民一途ノ獨創的王道政治ヲ實現ス
 - 二 協和會設立ノ意義 協和會ハ満洲建國ト共ニ生レ國家機構トシテ定メタル團體ニシテ建國精神ヲ無窮ニ護持シ國民ヲ訓練シ其理想ヲ實現スヘキ唯一ノ思想的、教化的、政治的實踐組織體ナリ、實踐シテ偏スルナク結合シテ私スルナシ
 - 三 満洲國政府ト協和會トノ關係 建國精神ノ眞髓

（次頁へつづく）

↑『満洲事典 昭和十四年版』（千田万三編著 1939年）より
（アジア学叢書 [第51回配本] 第354巻）

各員は永々御世話になつた御禮のしるしにと、菓子や葡萄酒や果物などを自家



十一月下旬には、各員の移轉が行はれた。
事務陣も住み慣れたジャラン
トン市街でのロシヤ人宅下宿を
引き拂つて山中の孤獨生活に移
らうとする時は、流石哀愁を覺
えるのであつた。

一六一

蒙地の王侯などは一人て數萬の羊を持つてゐる人もある相ですが、そうした理由から所有家畜の半ば以上を失つてゐる者もありますが、一向對策を講じる風もなく、平然としてゐる有様は、驚く他ありません。
これらの雪害對策として無責任な遊牧をやめて、一定の地點に羊の冬營場を設け、其處を中心として牛糞一里内外の地の草を冬の爲に残し、それより外で夏の間は放牧すると同時に冬の爲の牧草を刈り取つて冬營場の周圍にうづ高く積み重ねて寒冷を防ぐ事とし、冬になると漸次一里以内で放牧し、雪に草が埋



羊子放牧（蒙古在來種）

全5巻(第363～367巻)

* 2023 年 9 月刊行

全5巻揃 ISBN 978-4-86688-333-5
定価 121,000 円(本体 110,000円+税10%)
A5 判・上製・クロス装・総約2200 頁

*各巻
分売可

❖ 特に関連する領域 ❖
[分野・テーマ・キーワード]

満洲国建国・満洲国協和会 国策・宣撫
軍事・統治・植民地・民族 文化・風習
教育・視察旅行 牧畜・農業・自然
実録・目撃者・当事者・民衆意識

363. 満洲事変秘史 津田元徳 著
880 頁 978-4-86688-363-2 定価 44,000円(本体 40,000円+税 10%)

364. 建国前後 三宅光治 著
300 頁 978-4-86688-364-9 定価 18,150円(本体 16,500円+税 10%)

365. 建設者の息吹 田村敏雄 著
380 頁 978-4-86688-365-6 定価 20,680円(本体 18,800円+税 10%)

366. 満洲牧場記 関屋 牧 著
350 頁 978-4-86688-366-3 定価 19,800円(本体 18,000円+税 10%)

367. 満蒙を正視して 西内精四郎 編
鮮満の旅 大場運次 著
(2 点合本) 290 頁 978-4-86688-367-0 定価 18,370円(本体 16,700円+税 10%)

●各巻の詳細内容(目次)はこの案内の 5, 6 ページに掲載しています。

「満洲」既刊関連書より

■第 51 回配本「満洲Ⅰ編」全 5 巻(第 354～358 巻) 978-4-86688-331-1 定価 111,100 円(本体 101,000 円+税 10%)

354. 満洲事典 昭和十四年版 千田万三 編著 430 頁 978-4-86688-354-0 定価 26,070円(本体 23,700円+税 10%)

355. 満洲移住生活 三浦悦郎 / 拓務省拓務局 / 牛久昇治 編著(3 点合本) 450 頁 978-4-86688-355-7 定価 26,400円(本体 24,000円+税 10%)

356. 満洲国事情 満洲事情案内所 / 東亜旅行社 / 日満実業協会 編著(3 点合本) 400 頁 978-4-86688-356-4 定価 23,100円(本体 21,000円+税 10%)

357. 満洲建国の人々 鷲尾雨工 著 390 頁 978-4-86688-357-1 定価 21,780円(本体 19,800円+税 10%)

358. 簡易 満洲案内記 昭和十三年版 南満洲鉄道 編【付「別冊 折込図表」】 160 頁 978-4-86688-358-8 定価 13,750円(本体 12,500円+税 10%)

■第 52 回配本「鮮満編」全 4 巻(第 359～362 巻) 978-4-86688-332-8 定価 103,400 円(本体 94,000 円+税 10%)

359. 朝鮮満洲 支那のぞ記 小野賢一郎 著 330 頁 978-4-86688-359-5 定価 20,900円(本体 19,000円+税 10%)

360. 鮮満地方 大喜多筆一 / 平野博三 / 朝鮮総督府鉄道局 編著(3 点合本) 490 頁 978-4-86688-360-1 定価 29,700円(本体 27,000円+税 10%)

361. 朝鮮の経済 鮮満研究協会 / 京城商工会議所 編(2 点合本) 570 頁 978-4-86688-361-8 定価 30,800円(本体 28,000円+税 10%)

362. 鮮満を視る 東京市教員会 / 東京府青年指導者視察団 / 福岡県教育会鮮満視察団 編 360 頁 978-4-86688-362-5
定価 22,000円(本体 20,000円+税 10%)

満洲事情 全 9 巻 [大空社 1991.10 復刻] B5 判・上製 4-87236-180-6 定価 176,231 円(本体 160,194 円+税 10%)

外務省通商局編(明治 44～大正 13)、各地領事館が総力結集した広汎分野にわたる調査データ、満洲研究の先駆的重要資料。

索引式 全日本旅行辞典 附満洲(こと典百科叢書・第 7 巻) 上村益郎著

(原本・昭和 7 年刊) [大空社 2010.6 復刻] B5 判 810 頁・上製 978-4-283-00862-5 定価 31,680 円(本体 28,800 円+税 10%)

満洲(リバイバル〈外地〉文学選集・第 4 巻) 中西伊之助著

(原本・昭和 9 年刊) [大空社 1998.10 復刻] A5 判 460 頁・上製 4-7568-0400-4 定価 14,300 円(本体 13,000 円+税 10%)

* 詳細資料進呈

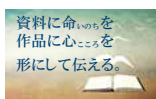
(2023.9)

〈発行〉

学術資料出版

大空社出版

www.ozorasha.co.jp

お
取
扱
い

eigyo@ozorasha.co.jp

TEL:03-5963-4451

FAX:03-5963-4461

(〒114-0032) 東京都北区中十条 4-3-2

アジア学叢書 第53回配本「満洲Ⅱ編」 全5巻

詳細目次

- ・一部抜粋省略
- ・章節項の数字改変
- ・漢字仮名現代表記

- 第363巻 満洲事変秘史 津田元徳 著
第364巻 建国前後 三宅光治 著
第365巻 建設者の息吹 田村敏雄 著
第366巻 満洲牧場記 関屋牧 著
第367巻 満蒙を正視して 西内精四郎 編 / 鮮満の旅 大場運次 著

第363巻 満洲事変秘史 津田元徳著

[復刻原本：満洲文化協会、1934・昭和9年刊。]

口絵写真5葉（満洲国皇帝・皇后陛下、肅忠親王と書画、著者肖像）

1. 我が帝国の政局

(1)国体政体の大変革 (2)ムッソリーニの独裁政治（全責任と全権力、独裁政治の成功、ファッショの由来） (3)我が国に於けるファッショ運動（政党の腐敗、ファッショ団の勃興） (4)独裁的強力政治の熱求（外交の公憤、權益侵害の一例、怪文書と五・一五事件の警鐘）

2. 事変と外交

(1)群少鳴りを鎮む (2)神算鬼籌（満蒙買収案、橋本左内と東亜併合説、伊藤公の対外交論、歴代外相の難題、事変当時の軍容、中村陸軍大尉と久保田海軍中佐、内田外相と自主的外交の確立） (3)1931年に於ける外交史上の三愚（第1愚＝支那：抗日亡国論、痛快なる棄権、大亜細亜主義 / 第2愚＝日本：被告快諾の失、調査委員と上海事件、明治大帝の御霊、聯盟加入の愚、独逸の自主的外交、不戦条約の圧迫） / 第3愚＝國際聯盟：欧米各国の錯覚、報告書に対する意見書、欧米の深意と我が覚悟）

3. 満洲国独立前後の秘幕

(1)至徳高運の元首（宗主権返還の要求、満洲は支那領土に非ず、不磨の大典と熱誠の至言） (2)独立先驅の一王府 (3)独立貢献の二邦人（河本大作大佐、甘粕正彦大尉） (4)独立幫助の三人男（于冲漢、蒋介石、内田康哉） (5)輿論喚起の青年聯盟志士

4. 勲功と大日本精神

(1)大日本精神の最大根底 (2)日本城の一大靈泉 (3)不朽の日露戦役殊勲 (4)陸軍の殊勲（本庄将軍と幾千の英霊、空閑少佐と武士道、西尾少尉の殉死、尾山大尉の幻影、民国節義の士、爆弾三勇士、北満の血吹雪、隠れたる特別任務、将卒家庭の悲話美談、国民精神発露の種々相） (5)海軍の殊功（上海事変に於ける海軍の偉力、呉淞砲台の全滅、黄白人種航空第一戦、遺外艦隊の功勞） (6)不眠不休の警察官と関東庁（関東庁警察と朝鮮統治、万宝山鮮農問題、通化救出事件、横道河子の英霊、匪賊の検挙） (7)決死の満鉄社員（満鉄三勇士、烈士と殉職、抜群の実績、経綸の権威者） (8)教育の一大革新 附録：日本精神と軍用鳥獣

5. 教育革新の五大方針

(1)思想（共產主義と青年心理、ムッソリーニとバリルラ事業、独逸の青年訓練、歐洲大戰捨身の勇士、リットン卿の驚嘆、訓練第一主義と家庭権威） (2)発明（軍事勝敗の決、無線遠距離実写、世界第一の大時計、発明王エジソンとマルコニー侯、科学の犠牲） (3)拓殖（270年前の紐育、満洲経済建設要綱、満洲国の資源、燦然たる黄金、開拓者叙勲の光栄、日満支人の提携） (4)経済（造船の競争、世界市場の圧倒、経済戦全勝の教育、危険線突破の策） (5)体育（天恵の日本城、裸体礼讃の欧米、日の本主義）

6. 支那軍閥の真相

(1)緒言 (2)支那歴代一貫の禍根（凄愴の民情、軍閥と匪賊の輪廻、匪の宿願、官民和洋製の馬賊、匪賊の蛮行） (3)役人の内幕（役徳と売官、靈帝と導行費、貴夫人の略奪、収賄と密売） (4)支那兵の常態（兵即盗、略奪狂、丸腰の大元帥と蝦腰の老婆、服装百態、皇軍の威風） (5)張家二代の榮華（伏魔殿、国宝の盜売、贅沢振と因果応報） (6)王侯将相の艶福（奇怪の艶史、漢宮の登山、隋廷と十六院、武后の婢妬、貴妃の妖艶、夏姫の仙術、纏足考、馬占山と香嬪、三不知将軍、省長の女郎屋） (7)神意天業

7. 支那の国民性

(1)緒言 (2)名句妙字（満地倭血を以て彩らん、日本人の意表に出づる字句） (3)巧言令色鮮矣仁（大言壮語の利用、詐偽の教科書、徹底的虚偽、不可解の宦官、欺瞞の宣伝、二十一条締結の真相） (4)叛服常ならず（疑心暗鬼の社会、寝返りの名人、郭松齡の反逆、張作霖の震駭、国民性の大差、逃足早き馬大将、占山の本心、権と金と

的的外る） (5)金、金、金、（翻手覆手の因、発財手技、立退料と入城料、未曾有の質料、地獄の沙汰も金、賄成の政治、富貴と妻妾、結婚難の悲喜劇、女房の質入、附録（白、黒、鉄砲）：日本人の拝金病、奇想天外の方法、同士打の武器） (6)残酷性（帝後の残忍、恩に仇の使用人、人質の虐待、戦時の凶暴、不死身の紅槍会匪、興安嶺の血吹雪、第一線の人垣） (7)附上り性（盗人猛々し、失地真因は民族性、現金取引主義） 附録：日支人の長短所

8. 結論

(1)支那の将来と日本の覚悟（百世の後知るべきか、老子以降の均産主義、共產主義と国家危害論、共產軍の猖獗、代馬と越禽、独立分離の実相、虎視眈々の列国） (2)大生大死の教育（独逸議會未曾有の非幕、必死全勝） 附録篇：却老環少の仙薬（人生絶大の要求、斯道研究の先進国、毒薬と寿教、愛精養神の寿書、不老長生の靈薬、強精の珍劑、媚薬）

第364巻 建国前後 三宅光治著

[復刻原本：満洲新聞社、1944・昭和19年刊]

はしがき

1. 建国前後

日清戦争と日本の目醒め / 義和団事件とロシアの南下 / 臥薪嘗胆の十ヶ年 / 日露の役：南山攻略戦に初陣 / 遼陽城も陥つ：日露の役たけなわ / 日露の役終了 / 天祐神助を思う / 英米の野心台頭と日本国内の事情 / 満洲事変勃発前の空気 / 昭和6年9月18日夜 / 戦果各地に挙る / 転戦又転戦 / 事変の一段落と建国の機運 / 満洲建国の意義 / 協和会の創立

2. 大東亜共栄圏確立と協和会の使命

満洲建国の世界史的意義 / 建国精神と協和会 / 共栄圏確立と協和会運動 / 実力と精神力を示す秋 / 共栄圏確立の真髓 / 協和会員に与う

3. 決戦下に於ける協和会運動の現状

協和会創立の理念と任務 / 協和会運動の方針 / 決戦下の三大目標 / 二位一体制の確立 / 科学技術翼賛も具現 / 国民の組織的訓練

4. 完勝筆言録

宣戦の布告を拝して / 建国精神に生きよ / 建国十周年を迎う / 陸軍記念日を迎える / 戦う親邦を祝る / 大東亜戦争二周年を迎えて / 四千三百萬総進軍 / あとがき（江崎利雄）

第365巻 建設者の息吹 田村敏雄著

[復刻原本：新京日日新聞社出版部、1940・昭和15年刊]

序 1. 今の満洲に欠けているものは何か？ 2. 満洲で足りないものは物資と人材だと書いた 3. ちか頃満洲国の政策の転換が云々されるようだ 4. 満洲国は道義国家だというが 5. 国防国家ということがよくいわれる 6. 政策転換が客観的情勢としても要請されつつある 7. かつて鮎川義介氏は満業総裁として満洲に乗込んで 8. 最も多く最も美しい病院を有する民族が最も健康なのは 9. 農林省では酒井新大臣の下にかねて研究準備中だった食糧局を 10. バナナド・ショウと林語堂とを並べて書いたら 11. 石炭節約というよりは石炭を最も有効に生産力拡充の方向に 12. いまは「非常時」だという 13. 銃後一般民衆に非常時局を意識させる 14. 阿部内閣は支那事変の処理に専念するという 15. だいたい東亜の新秩序とか対米国交調整とかいうが 16. 倉田百三氏が渡満せられた 17. 「窮すれば通ず」ということは 18. 「享楽との絶縁」という説がある 19. 日満両国は不可分一体だ、一徳一心だということは 20. 日満両国の不可分一体関係を両国民に理解徹底せしむる 21. この頃の新聞を見ていると、考えさ

せられることが 22. 重要物資の統制、資金の統制、貿易の統制、必需品の配給統制 23. 貧乏よりは金持の方がよい、月給は安いより 24. 東京に東京に茂原右眼という人がある。日露戦争の勇士で 25. 日本人ほど外国のことに通じている国民はないといわれる 26. ヨーロッパ戦争は愈々本格化してゆくと共に 27. 現代と従前の世界との差異はいろいろの点に求めることが 28. 民族の興隆、文化の発展ということは 29. 文官令の改正が伝えられる 30. せんだつての省長会議の最終日懇談会の終りに当って 31. いづこよりいづこへ流れゆく人の波ぞ 32. 遊興税問題は多少の波瀾を起したが愈々12月1日から 33. 「わるくちは鰻の蒲焼よりもうめえ」とは江戸の 34. 「民生政策は竹の節のようなものだ」と星野長官が 35. 「土と戦う」という満洲開拓青年義勇隊江訓練所の菅野正男君の 36. 「満洲国は官僚の楽土だ」といった人が 37. 満洲国の特色は一方においてその指導原理が 38. むかしから「医者の不養生」ということは 39. 最低生活即最上生活だといったら 40. 「自戒自肅」は消極的だから「協和奉公」に代えよう 41. きょうびでは満洲国三千万民衆の総意で建国されたというような 42. 満洲国は経済的にも政治的にもはた文化的にも 43. 南洋では日本人のことを「懷中電灯」と呼んでいるという 44. 満洲における日本人は不親切だとは皆人の認めているところ 45. 「自分のことは自分でせよ」とは小学校における 46. 民生新興の強調につれて医科大学や 47. 今の役人達に「できるだけ仕事をしないようにして 48. 「ナチス厚生協会」はドイツにおける 49. この頃はすべて「物が足りない、不足だ」という面からばかり 50. 経済統制はその本質からいって、結局は国民経済の 51. この両三年来、つまり産業五ヶ年計画着手の方 52. 「砂糖の消費量は文明の尺度なり」という様な説を 53. 東亜新秩序建設の経済的・方法的基礎は何といっても 54. 二十ヶ年百万戸五百万人という目標の下に 55. 「胡は長くして百年」とは支那事変勃発当時支那の 56. 即今開拓国策として重点をおかれているのは 57. 日満間における官吏の交流、待遇の一元化が、各省次官会議 58. 日本内地の米穀問題は、その表面にあらわれて 59. 日本内地における米の問題は前にも書いたように 60. 満洲の強味というか、好きは何であるか 61. 朝鮮ではさき頃の排英運動の際、単に演説会や 62. 人物の採用試験というものは、その全体を 63. 朝鮮ではさき頃戸籍法の改正をやって、朝鮮人の姓を 64. 紀元二千六百年の新春を迎へ 65. 金から物へ、物から人へというのが、この数年来の 66. 組織か人か？ということあるいは制度か 67. 「いたづらなる民族的優越感をもつな」ということは、建国の 68. ドイツの農村を見て帰った人の話を聞いて考えさせられ 69. 日本人たるの誇りをもてといっても、単に日本人は 70. この頃日本内地でも、官僚に対する非難攻撃の火の手が 71. 日本人に「高い誇りをもて」というのは、なにも満洲に 72. タクシーに乗る人は多分気がついているだろうが 73. 「経済はあくまで経済である、経済と倫理道徳とを 74. いわゆる「精動」すなわち国民精神総動員聯盟は 75. 昨年の協和会全聯において梅津名誉顧問は「声なきに 76. パール・バックの「戦える使徒」を読んだ人は、主人公 77. よく思想の統一だの、共通の意味だのというけれども 78. 物価の問題を単に経済の問題としてのみ考え、かつ取扱う 79. 生産力拡充だ、産業五ヶ年計画だ、国防国家の完成だと 80. 「東亜の新秩序」ということは、いまはもはや 81. ある人は満洲国には政治がないといった 82. 病院の繁栄が、いかに社会理想と反するものかなどと 83. 満洲社会の特色はあらゆる方面に 84. 郵船浅間丸事件—日本国からわずか23哩という 85. 教育と教師とが不可分なことは 86. ある小学校では、生徒の昼べんとうの時間に、その受持の 87. 日満不可分関係の強化とか、大陸日本の建設とか 88. 日本は世界一の結核病国だといわれる 89. 北満でひろった話。北満で実際見た話 90. 生活の基本は衣食住だということは誰でも 91. 時のたらしきというものがあらゆる方面に 92. 大陸日本の建設だ、くにつくりだなどと 93. ひところのこと、現地興奮症ということばが 94. 協和会の本年度工作方針についての 95. 聞くところによると、日本内地師範学校入学志願者がいちじるしく 96.1月10日調べによる今年度の日本内地医科大学入学志願者の状況を 97. 開拓政策は、満洲国では基本国際として、あらゆる 98. ある国民高等学校長から聞いた話だが、その学校は

第366巻 満洲牧場記 関屋牧著

[復刻原本：奉天大阪屋書店、1943・昭和18年刊]
興安牧場

1. 春風来る 2. はじめの時 3. 風土の眺め 4. 協力 5. 育馬 6. 春耕 7. 白系露人 8. 暁のにおい 9. ポスチニア・ブルトン 10. 高

原の狩猟 11. 復活祭 12. 牧野 13. 森林 14. 河川 15. 漁族 16. 哈拉蘇・巴里木 17. 飼料とその自給 18. 馬の衛生 19. 狼来了 20. 仙峽亭 21. パンテオンの丘 22. 場内の住民 23. 土地の紛争 24. 牧場祭 25. 馬盗人 26. 収穫 27. 対話：馬の歴史に就いて 28. 落成 29. 元旦 30. 首途

王府牧場

1. 牧場の展望 2. 土地と住民の歴史 3. 草原のとなり組 4. 牧場の歴史 5. 啓蒙への途 6. 牧場散策（羊舎、羊の食物、断尾、去勢、載耳、薬浴、サイロー、修繕工場、農具庫、家畜舎と家畜） 7. 綿羊座談会（宗教と羊、ギリシャ神話から、羊の歴史、羊肉料理、羊の毛について、羊の病気、出産、繁殖、悲しき風土の性格、アルカリ地帯、肥料について、麦、家畜ビート、馬鈴薯、蔬菜、牧野、林野、年中行事、経営の意志、終りのことば）

第367巻 満蒙を正視して／鮮満の旅

満蒙を正視して 西内精四郎編

[復刻原本：大連中等学校満蒙研究会、1931・昭和6年12月刊]

巻頭言

1. 満蒙の沿革

序論 漢代以前 漢代 三国時代から南北朝迄 隋、唐時代 遼、金時代 元代 清朝時代 現代 結論

2. 満蒙の権益

意義、基礎条約 権益の実態（領土、土地に関するもの、駐兵権、土地商租権、産業に関するもの、間島に於ける鮮人雑居権、鉄道に関する権益〔南満洲鉄道、満鉄の培養線、吉会鉄道〕、日支関係の概要）

3. 満蒙の重要性

概説 人口問題 国防上 資源上 貿易上 投資方面から見た日満関係 結語

4. 満洲事変の原因

前言 鉄道権益の侵害 居住権の侵害 商租権の圧迫 在満鮮人圧迫 我が軍隊に対する不法行為 排日教育 結語

5. 満洲事変の経過—一事変日誌

6. 皇軍の奮闘

奉天北大営の占領 長春附近の戦闘（南嶺寛城子） 大興の戦闘

7. 満洲事変より波及したる全支の排日暴挙

8. 事変と鮮人

9. 事変と在満邦人の活動

青年訓練所の活動状況 少年団の活動状況 学校団体の活動状況 婦人団及女学生小学児童の活動状況

10. 満洲事変と国際関係

満洲事変の特殊性 国際聯盟動く、附：国際聯盟について 事変に対する帝国政府の態度 米国の動き、附：不戦条約、九箇国条約 錦州事件 第二次聯盟理事会 第三次聯盟理事会 現在の状況 英米仏露と事変

11. 事変の拾収

12. 結論

附録（国際聯盟規約／九箇条約／露支同盟秘密条約／日露講話条約／満洲に関する条約、附属秘密議定書／満洲五案件に関する協約／間島に関する協約／南満洲及東部内蒙古に関する条約）

鮮満の旅 大場運次著

[復刻原本：大場運次、1941・昭和16年7月刊]

序文 出版準備 東京駅発 釜山着・京城泊 朝鮮の教育及創氏令 東大門に就ての哀話 朝鮮総督府・南総督の治世 非常時下の朝鮮 朝鮮人の風俗習慣 朝鮮の人口及金融状態 温井里宿泊・金剛山登山 清津見学 朝鮮に於ける農業の現況 農村振興運動の効果 満洲路に入る 満洲の位置、面積地勢地質 満洲の気象 哈爾濱宿泊見学 伊藤博文公遭難の地 沖・横川等憂国志士の碑に参拝 松花江の明月を賞す 満洲の伝説と民謡（東明王、高句麗の開国、契丹の始祖、清の始祖に関する伝説） 満人の家庭生活に関する民謡 新京・宿泊見学 満洲国主権皇紀二千六百年祝典に参列 満洲国の対外関係 日満両国の関係 吉林見学・娘々廟の由来 大石橋郊外にある娘々廟の伝説 奉天・宿泊見学 撫順・炭鉱見学 満洲国の鉱業の概況 満洲の工業（食料品、製粉、製糖） 大連・宿泊見学 満洲の農業 満洲の土壌と生産力 満洲国拓民事業の現状と将来 青少年義勇軍の開拓事業 旅順・宿泊見学 旅順開城に関するステッセルの手面 大連出発 航海中・船中余禄 都会青年と山村漁村の青年 神戸上陸・湊川神社参拝 東京着解散 大陸二五会 大陸の忠霊塔 満洲帝国協和会に就て